

児童・生徒、保護者		学校の運営		地域社会への影響	その他影響	
学校の対応	児童・生徒の安全への影響 (最優先課題)	保護者への影響	教師・事務職員等への影響			学習の進捗への影響
【授業（学校行事）】（授業中に情報が出た場合）						
継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性（海岸線沿線）を考慮した場合に、地震発生後後すぐに避難することができるか。 ・避難所になっているために、多くの地域住民、自主防災関係者が学校に集まること予想される状態で、落ち着いた学習環境を維持することは可能か。 ・児童等を引き取りに来る保護者とトラブルが発生する恐れがあるのではないか。 ・市全体で統一した対応を求めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発表後、自主的に引き取りに来た保護者がいる場合、学校の方針に従い、学校に留まる児童・生徒との間で何らかの不公平（授業の進捗状況等）が生じないか。これにより、自主的な避難の妨げにならないか。 ・学校に避難所が設置された場合、不特定の人間が入り出すことになるので保護者が不安に感じるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の子供の通学する学校が休校措置をとった場合、迎えに行ったり、帰宅したりしなければならない。その場合、通常とおり授業を継続することは可能か。 ・施設管理者としての避難者対応業務が発生する。 ・地震発生が相対的に高まっている状況で教育活動を継続しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の生徒に帰宅を認めた場合、学習進度が異なることへの対応が求められる。 ・教職員の家庭の事情等で早期に帰宅しようと、生徒に対応できる教職員数が不足してしまう状況で通常のカリキュラムを継続することは可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所を開設しながら、通常の授業を行った際、避難してきた地域住民に対し、教職員が十分なケアを行うことができない可能性が大きい。 ・避難希望者と授業を継続しようとする学校とでトラブルになる可能性がある。 ・車中泊するため、自動車で学校に避難しようとする住民が発生するのではないか。 	—
中止 (下校)	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅することでかえって危険な状況になる場合がある（近隣の建物では学校が一番安全である。）。 ・帰宅しても保護者が不在の場合の対応が不安である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務中である場合、帰宅する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の状況により、生徒を学校に残して欲しい等、各家庭の要望に対応する必要がある。 ・給食を停止した場合に払い戻しなどの業務が発生する（職員の負担が大きくなる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間が長期化する場合、地域により学習の進捗状況に差が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が不在の場合、生徒を地域が受け入れることが可能か。（日頃通学路で見守り活動をしているボランティアなどをお願いできるか。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所である学校から生徒が帰ることで、地域住民にとって学校へ避難に向かいにくい心理を生む可能性がある。
中止 (留め置き)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が発表される期間が明確でない状況では、留め置くことができる期間に限界がある。特に飲食物等の備蓄には限り（不安）がある。 ・通常とは異なる環境では、メンタルが不安定になる児童生徒がいるのではないか（心理的ストレス、パニック）。 ・授業等が必要な児童生徒への対応が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波浸水区域等に立地する学校に向かうことはできるか。危険な状況に置かれる可能性がある。 ・全員を留め置くことは現実的ではないが、自宅が津波浸水区域にある生徒は学校に残すか、安全な避難所に生かせるかを保護者、生徒と共通理解しておくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留め置く期間が長期化した場合、職員の負担が大きくなる。 ・長期化（2日以上）した場合、メンタル的に不安定になる生徒も一定数いるものと思われるが、クラス担当教員・保健医・養護教諭のみでケアは可能か。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・報道等で臨時情報を知った住民が学校に自主避難をしていく可能性があり受け入れの可否を判断しなければならない（避難情報発令前の自主避難への対応） 	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保されている学校の教室を間借りして、授業を実施することは可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童デイサービスは営業するかかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を停止した場合に払い戻しなどの業務が発生する（職員の負担が大きくなる。）。 	—	—	—
【授業（学校行事）】（夜間・休日に情報が出た場合）						
実施	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が出ている場合、授業を実施することについて保護者の理解が必要。 ・生徒が不安を感じながら授業が続けられるか。 ・学校メールシステムなどで登校・休校を通知することになるが、通信が集中する中、連絡手段が確保できるかどうか不安である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後の行動（避難場所や引き取り手段等）を家庭（親子）で事前に決めているか。 ・なぜ実施するか、疑問に感じる保護者が多いことが考えられるとともに、地震発生時の対応に不安を感じる保護者も多いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の子供の通学する学校が休校措置をとった場合、迎えに行ったり、帰宅したりしなければならない。その場合、通常とおり授業を継続することは可能か。 ・情報が出ている状況で、冷静に授業を続けることが可能か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の家庭の事情等で早期に帰宅しようと、生徒に対応できる教職員数が不足してしまう状況で通常のカリキュラムを継続することは可能か。 	—	—
休校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校よりも危険な状況にある地域や居住地で生徒の安全確保が十分にできるか。 ・緊急メール等で休校を伝えるが、学校へ登校した生徒への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先等へ出勤することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設備の維持管理、保護者からの問い合わせに対応するために何人の職員が必要となるか。 ・学校再開のタイミングをどのように決定するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が出ている状況で、教職員全員が冷静に判断し、落ち着いた行動することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休日に被災した場合職員の登校に時間がかかり、自主防災組織に頼ることが増加する。 	—
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで自主的な避難なので欠席扱いになるのか。（学校の方針に従い残っている生徒との不公平感があると、自主的な避難の妨げとなる可能性がある） ・自宅での対応の仕方についての問い合わせが予想される。 	—	—	—	—	—
【登下校】（登下校中に情報が出た場合）						
登下校中	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は各自で通学路を決めているが、それぞれの通学路の安全が確保されているか。 ・学校までの登校経路に危険箇所がある地区もあり安全の確保に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後の避難場所等（自分の身は自分で守ることなど）を家庭で事前に話し合っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に向かうまたは戻る途中での責任は、誰が負うのか。 ・受け入れ、通学路の見届けと職員が分散され対応しきれない不安がある。 ・児童の所在把握や保護者への連絡手段が不安。 	—	—	—
帰宅	<ul style="list-style-type: none"> ・学校よりも危険な地域に居住する児童・生徒の安全確保ができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務中であれば帰宅する必要がある。すぐに帰宅することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学及び下校途中の生徒に対してどのように伝えるか。（事前に指導する場合、どのようなことに留意する必要があるか。） ・帰宅途中で被災した場合、その責任の所在はどこになるか。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が不在の場合、生徒を地域が受け入れることが可能か。（日頃通学路で見守り活動をしているボランティアなどをお願いできるか。） 	—
その他	—	—	—	—	—	—

「学校の対応」課題整理表（詳細）

学校の対応	児童・生徒、保護者		学校の運営		地域社会への影響	その他影響
	児童・生徒の安全への影響 (最優先課題)	保護者への影響	教師・事務職員等への影響	学習の進捗への影響		
【入試】（試験中に情報が出た場合）						
継続	<ul style="list-style-type: none"> 地震発生後の事前の対策がきちんと決まっているか。事前に保護者の理解を得ているか。 災害への不安、ストレスがある中、入試で本来の力が発揮できるか疑問である。 居住地によっては、入試会場に向かいにくい地区もあり、公平性、平等性が確保できているか疑問である。 受験後、通常と異なる距離、経路で生徒を安全に帰宅させることに不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発表後、自主的に引き取りに来た保護者がいた場合、学校の方針に従い、学校に留まる児童・生徒との間で何らかの不公平（授業の進捗状況等）が生じないか。これにより、自主的な避難の妨げにならないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校生の対応もしなければならない中、各校に分散して受検している生徒の安否を確認することが困難である。 	—	—	—
中止 (下校)	<ul style="list-style-type: none"> 普段と異なる学校が入試会場になっている場合、安全なルートで帰宅することができるか。土地勘のない状況で、安全な選択をとることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務中であれば帰宅する必要がある。すぐに帰宅することができるか。 引率者が父兄の場合があり、責任の重い業務を担うことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の状況により、生徒を学校に残して欲しい等、各家庭の要望に対応する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の卒業後の進路（進学）に関わる問題であり、中止した後、ある程度の期間で入試を実施しなければ入学の時期に影響が出る。 進学に関わる問題であり、中止した後ある程度の期間で入試を実施しなければ入学の時期に影響する。 	<ul style="list-style-type: none"> 受験会場周辺が迎えに来た保護者で混雑するのではないか。 	—
中止 (留め置き)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の中には、通常とは異なる環境下に置かれることで精神的な不安を感じたり、もともと持病があったりして、生徒一人一人に十分な対応をすることが出来ない可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水区域等に立地する学校に向かうことはできるか。危険な状況に置かれる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 受験先の学校と安否確認が十分にできるか不安である。 	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
【入試】（前日までに情報が出た場合）						
実施	<ul style="list-style-type: none"> 授業実施の場合と同様、保護者の理解を得る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験会場までの送迎のために保護者が危険な地域に留まる必要があり、それにより自主的な避難の妨げとなる可能性がある。 入試には、車で送迎する家庭が多い中、避難者、緊急車両などで、交通渋滞を引き起こす可能性がある。 	—	—	—	—
中止	<ul style="list-style-type: none"> 再試験はいつなのか不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務中であれば帰宅する必要がある。すぐに帰宅することができるか。 	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
【避難所】（情報が発表され避難所が開設された場合）						
実施	<ul style="list-style-type: none"> 住民が避難している状況（普段とは異なる状況）で、落ち着いて授業を受けることができるか。 避難所（学校）からそのまま通学する者がいる可能性がある。 保護者の理解を得る必要がある。 トイレや出入り口など、児童生徒と避難者が生活を共有することになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が避難所として学校を使用している場合、授業の実施は困難となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を継続しながら、施設管理者として避難所運営に携わることとは可能か。職員への負担が大きくなるのではないか。 施設管理と避難所運営にかかわる打ち合わせを事前（平日頃から）に準備しているか。 教職員の息子が通う学校も避難所になっている可能性があり、教職員自身が通勤できる状況ではなくることが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の一部（体育館や特別教室等）が使用できなくなることによる学校行事などへの影響 	<ul style="list-style-type: none"> 避難対象の住民が避難できるだけの収容力が学校にあるか。 地域住民及び避難住民との役割の分担をどうするか。 体育館での共同生活に支障のある要配慮者は教室等の区画された部屋を希望することが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 報道機関の取材による混乱が懸念される。
休校	<ul style="list-style-type: none"> 長期化した場合、生徒と避難住民を学校に収容することになり、スペース、トイレなどのインフラが不足する恐れがある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 避難所を開設すると、教職員への負担が大きくなる。 学校としての部分と避難所としての部分のすみ分けをどうするか。 いつまで避難所機能を維持することになるのか不透明である。 	—	—	—
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> 迎えに来た保護者が児童生徒と一緒に避難することも考えられる。 	—	—	—	—